

令和6年度住まいとコミュニティづくり活動助成事業 活動概要報告書

令和7年3月28日

特定非営利活動法人 やどかりプラス

理事長 芝田 淳

①団体設立経緯（200字程度）

2007年、連帯保証人がいないがために住居の確保に困難を抱えている方々のために連帯保証を提供することをとおして居住支援を行うためにNPO法人やどかりサポート鹿児島が設立された。やどかりの活動とおして、『身寄り』がないと困難を抱えるという社会課題があることに気づき、これを『身寄り』問題と名付け、2017年に『身寄り』問題の解決に挑むためにNPO法人つながる鹿児島が設立された。2024年に両NPO法人が合併して、NPO法人やどかりプラスが誕生した。

②活動概要と活動対象範囲（200字程度）

「住まいとつながりをすべての人に」をビジョンに掲げ、居住支援と『身寄り』問題に取り組んでいる。「すべてを失ってももう一度つながれる社会の創造」が第一のミッション。「当事者主体の居住支援」を推進し、困難を抱えた方々が互いにつながることで、課題解決を図っている。

「身寄りがなくても困らない社会の創造」が第二のミッション。身寄り問題の解決に向けた様々な取り組みを行っているが、ここでも、身寄りがない当事者どうしの支えあい助けあいに力を入れている。

③活動に至った理由や背景（200字程度）

居住支援全体の大きな課題として孤独死が存在している。しかし、孤独死は、人の尊厳の問題としてではなく単に不動産にとってのリスクとして語られることが多い。また、やどかりの支援現場でも残念ながら孤独死が発生している。つながり作りが不十分なためである。

この孤独死という課題を、当事者の力で解決したい、と考えて「孤独死ゼロアクション」を開始した。「孤独死ゼロアクション」がひろがることにより、人と人がつながることが個別の課題解決のみならず地域や社会の課題を解決することにつながることを実証されていくであろう。

④活動内容と成果（2,800字程度）

〈A〉見守り合い活動（鹿児島市内）

月に2回年間24回、見守り合い活動に関するミーティングを行いました。

居住困難に陥った方々に対する入居後の継続的な支援を、当事者どうしのつながり（コミュニティ）によって行っていくために、アウトリーチによる訪問スケジュール・LINEグループによる見守り合いの運用方法などを協議してまいりました。

また、特にフォローが必要な方一人ひとりの状況を「個別案件」として共有し、どう対応していくかなども話し合いの上、訪問活動に落とし込んできました。



【photo_001.jpg】



【photo_002.jpg】

アウトリーチでは対象者が住まう鹿児島市内を6つのエリアに分けて2人1組で訪問し、google フォームを活用したスマートフォンでのアンケートをとりながら、困り事や相談に対応しました。体調や住まい、就労に関して変化はないか。郵便物がたまっていないか。部屋は清潔に保たれているか。などを確認して回っています。



【photo_003.jpg】



【photo_004.jpg】



【photo_005.jpg】



【photo_006.jpg】

医療や福祉などの機関とつながりのない、見守りが必要な方に対して月に1回の頻度で会うことができるよう、スケジュールを調整した上で訪問を続けました。65歳を越えていて、病気がちで外出もままならないような方に対しては、地域包括支援センターに連絡し、ケアマネージャーをつけていただき、当事者プラス専門家でケアを行っていただける体制を整えました。また、居場所事業への参加やLINEグループでの見守り、ICT（見守り電気）の設置などを促し、当事者どうしのつながりを持っていただけるように働きかけました。不在時には事務局へ連絡を入れていただけるようチラシを投函しています。



【photo_007.jpg】



【photo_008.jpg】

安否確認 LINE グループ「ヒトコエ」は、4~5人のLINEグループを作成し、毎日「おはようございます」など一言入れてグループのリーダーが人数分のメッセージもしくは既読の確認をします。1日間メッセージがない方がいた場合は、事務局へ連絡し、駆け付け協力をしてくれるメンバーにその方の部屋に訪問していただけます。現在参加いただけているのは15名で6グループに分かれて運用しています。また、安否確認だけではなく、事務局からの連絡用オープンチャット、「フリートークルーム」「料理投稿ルーム」「写真投稿ルーム」「アニメ・漫画投稿ルーム」「健康トークルーム」の5つのテーマごとにトークを楽しめるオープンチャットも運用し、コミュニケーションの活性化を図っています。



【photo_009.jpg】



【photo_010.jpg】



【photo_011.jpg】

ICT見守り電気の設置に関しては、6名の方に設置いただきました。前日9時から同日8時59分の間、電球のON/OFFが確認できない場合に異常を検知しEメールにて通知がきます。通知がきたら電話連絡し、それでもつながらない場合は訪問します。



【photo_012.jpg】



【photo_013.jpg】

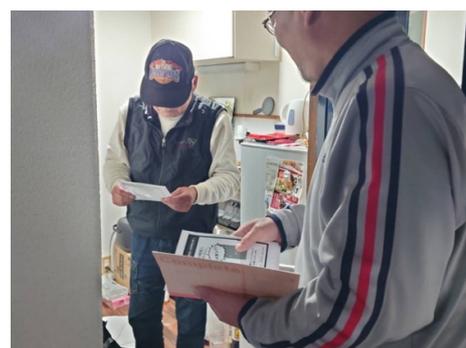
見守り合いミーティングにて意見が出た事案として、当事者が多く住むマンションでの騒音問題（玄関ドアの開け閉めの音）に取り組むべく、ミーティング参加メンバーだけではなくそのマンションの住民も巻き込んでチラシの配布と声かけを行いました。（マンション2棟×各2日実施）
また、ドアの開け閉めだけではなくマンション設備の異音に対しても、聞き取り調査のために訪問をし、管理会社、オーナーへ連絡しました。（マンション1棟×1日実施）
毎週火曜日に開催している居場所サロン「CoCoDe」の周辺とマンション共用部のゴミ拾い活動も行いました。（3回実施）



【photo_014.jpg】



【photo_015.jpg】 .



【photo_016.jpg】



【photo_017.jpg】



【photo_018.jpg】



【photo_019.jpg】



【photo_020.jpg】



【photo_021.jpg】



【photo_022.jpg】

〈B〉つながろう日置（日置市内）

2022年に起きた孤独死を機に日置市役所・日置市社会福祉協議会・民間事業者等と協働で「孤独死ゼロアクション」を推進すべく活動しています。日々のくらしや病気についての相談や、6月26日開催のつながろう日置の会合への参加を促すべく、日置市内にお住まいの13名の方へのアウトリーチによる訪問活動を実施しました。

〈6月26日つながろう日置〉

場所：伊集院地区公民館

参加者：利用者5名／関連機関・施設職員5名／やどかり職員2名 計12名

① つながろう日置の開催目的について

- ・参加者同士の交流・つながり作りの大切さの説明をしました。
- ・孤独死ゼロアクションの理解・賛同・参加を呼びかけました。

② 孤独死ゼロアクションについて

- ・新しくなったLINEオープンチャットの説明をしました。
- ・見守りLINEグループの説明をしました。

③ グループワーク

- ・新しくなったオープンチャットの紹介、見守りグループLINEの紹介をした後、3グループに分かれて意見交換やフリートークをしました。

具体的な孤独死についての話はあまりしていませんでしたが、グループ LINE の内容などを聞き、賛同する意見が多く聞かれました。

〈8月1日つながろう日置〉

場所：伊集院地区公民館

参加者：利用者6名／関連機関・施設職員3名／ピアサポーター2名／やどかり職員2名 計13名

① つながろう日置の開催目的について

- ・参加者同士の交流・つながり作りの大切さの説明をしました。
- ・孤独死ゼロアクションの理解・賛同・参加を呼びかけました。

② 孤独死ゼロアクションについて

・当事者でもあるピアサポーターから、安否確認 LINE グループの説明をした後、実際に起きた駆け付け事例を話すことで、よりリアルな現場の状況を認識いただきました。アンケートをとり、実際にグループに参加いただけるかどうか、日置市においてどのような課題があるかなどを伺いました。

③ グループワーク

・ピアサポーター2名の話の踏まえて、孤独死をなくすために日置市には何が必要か、ということについて2グループに分かれて話し合ってもらいました。参加者は少なかったのですが、それぞれの立場や置かれた環境などの違いから、いろいろな意見が聞かれ、アンケートの助けもあり、具体的な話し合い・意見交換ができました。

- ・自分のことは自分でする。(人に助けしてもらわなくてもいいようにする)
- ・グループホーム利用者さんは、困り事・相談事はスタッフが細やかに対応。グループホーム内で解決できないことは、利用しているデイケアのスタッフも協力する。また、デイケア通所の方には、デイケアスタッフが夜間や休日でも対応してくれることがある(台風の備え、体調不良時など…)
- ・緊急通報装置「早助(さすけ)」の利用をしてみてはどうか。(65歳以上の一人暮らしや高齢者のみ、または障害者等の世帯が対象。月額400円。24時間体制のコールセンターまたは協力者に通報される)

〈アンケート結果〉

問1 LINE グループの利用者の家が離れているということについて、①どのように感じるか、②どのような解決策があるか

- ・固定電話の人が多い。スマホを利用していない人もいる。高齢者にLINEは難しい。
- ・家が遠いので訪問が難しくなる。関わりを密にしていかなければならず時間を要する。民生委員さんの話が聞けて情報を得ることができた。
- ・LINEの連絡を密にする。孤独死ゼロ！事故物件ゼロ！
- ・グループで挨拶をして連絡をしていく。
- ・各グループに連絡し、その方の家に近い方が訪問するのがいいのでは。やはりLINEは大事。声が聞けることで安否確認ができる。

問2 孤独死を防止するために日置市でLINEグループに参加することについて率直な意見をお聞かせください。

参加したい…1人

参加したいがLINEの使い方が分からないので教えて欲しい…2人

LINEの操作は可能だが、参加は難しい…1人

LINEにも興味がないし、参加は難しい…0人

その他…2人(1人は、車の運転ができないので駆けつけが難しいという意見あり)

問3 実際にラインをした際に、いざという時の「参加者への連絡」や「駆けつけ」にご協力いただけますか。

「駆けつけ」にも「連絡」にも協力できる…2人 (おそらく向陽会グループホーム利用者さん)

「駆けつけ」または「連絡」のどちらかに協力できる…0人

とりあえずLINEグループに参加してみる…1人

参加することは難しい…3人

その他…0人

問4 日置市で地域の方とつながるためにLINEグループ以外ではどのような機会があればいいと思いますか？ぜひアイデアをお聞かせください。(例：食事会、ショッピングモールへの定期買い物バス、スマホ教室…)

- ・ショッピング(2人)
- ・家庭訪問したり、地域のサロンに声掛けする
- ・まずはLINEに興味を持ってもらえるよう…
- ・コミュニティバスがあればよい
- ・議員の参加、警察の参加



【photo_023.jpg】



【photo_024.jpg】

〈「身寄り」がない人の座談会&相談会〉開催

『身寄り』がない人の
座談会 & 相談会

参加費 **無料**

『身寄り』がなくても安心して暮らせる地域づくりを目指して。

『身寄り』問題がひろがっています。
『身寄り』がなく保証人がいないために病院に入院できない、施設に入所できないといった問題が生じています。『身寄り』がないために「自分が死んだ後どうなるんだろう」と悩んでいる方もたくさんおられます。

『身寄り』がいなくて困ったことがある方、今は『身寄り』がいるけど、将来、おひとり様になりそうで不安を抱えている方、そうした『身寄り』がない方々のための座談会・相談会を開催します。ぜひ多数ご参加ください。

第1回 2025. 2月22日(土)
第2回 2025. 3月22日(土)
時間 10:00～12:00
会場 日置市妙円寺地区公民館・妙円寺児童館
〒899-2503 鹿児島県日置市伊集院町妙円寺1丁目2200-793
要予約 下記までお電話ください。当日参加も受け付けております。

やどかりプラスは、『身寄り』がない人どうしが支えあい助けあう活動を行うことで『身寄り』問題を解決しようと活動しています。

住まいとつながりをすべての人に
NPO 法人 やどかりプラス+ 099-800-4842 info@npo-yadokari.jp
参加予約 お問い合わせ / 平日9:30～16:30

【photo_025.jpg】

日置市に住まう一般の方との交流を深めるべく、2月と3月に2度開催しました。

それぞれの開催1週間～10日前あたりにピアサポーターによるポスティングを実施しました。

土地勘もなく、家族構成等もわからないままでしたので、2月の開催日には一般の方は集まりませんでした。参加いただけた市議会議員の方にアドバイスをいただき、3月は公民館の入り口にチラシを貼っていただき、日置市役所福祉課にもチラシを設置していただきました。

結果、3月22日に実施した際には5名の方にお越しいただきました。

〈3月22日つながろう日置〉

場所：妙円寺公民館

参加者：日置市役所職員2名／市議会議員1名／一般社団法人代表1名／一般2名／やどかり職員2名／ピアサポーター3名 計11名

まず、ピアサポーターによる鹿児島市内でのツナガル活動（安否確認やアウトリーチ、居場所サロンの運営など）の実施事例の説明を行い、その後は少人数のため、フリートーク形式での意見交換を行いました。

日置市は高齢者の単身世帯が4,400世帯あり、今後さらに「身寄り」問題が深刻になってくると思われる。よく相談を受けるのは身寄りがあっても金銭的に葬儀があげられない、遺骨の引き取り手がない、入院時の保証人もいないとのことでした。

また、移手段がない問題もあげられていました。

もっと人数を集めて活動を広めていきたいことから、エリアの選定についてのアドバイスをいただきました。開催した妙円寺地区よりも、古くから自治会などがある吹上地区・日吉地区などが良いかもしれないとの意見をいただきました。



【photo_026.jpg】

⑤課題と解決方策（400字程度）

〈A〉見守り合い活動（鹿児島市内）

ミーティングにおいては、今後も継続して当事者主体で開催し、より多くの人につながっていただくための活動への参加を促していく必要があると思います。LINE グループは持病をお持ちの方や、つながりが乏しい方に向けて、高齢者には定期的な訪問や ICT の設置を受け入れていただけるようにしていくなど、対象者の属性に合わせた見守りの仕組みを構築していき、互助におけるフォローアップに取り残される人がいないようにしていこうと思います。

また、互助の範疇を超えるような相談を持ちかけられた時などは、事務局との連携、高齢者や障害者に対しては、地域包括や相談支援専門員等との連携が必要になってきますので、その点を強化していきたいと思います。

〈B〉つながろう日置（日置市内）

今年度の活動で、地域の特性や鹿児島市内にはない課題などを認識することができました。

今後は、市営住宅、県営住宅を中心にエリアを選定した上で、コミュニティ形成の重要性を訴求しつつ、互助会の開設を呼びかけてサポートする体制を整えたいと考えています。

昨今の「身寄り」問題に対して、市役所福祉課、住宅課、社会福祉協議会、民生委員等、地域と連携しながら取り組みを強化していきたいと思います。

⑥今後の予定（200字程度）

令和7年度におきましては、まずピアサポーターを増員し、より充実した見守り活動を活性化していきます。具体的には、複数の互助会の設立を目指し、アウトリーチや居場所サロンの運営を含め、多くの方に参加いただける活動へと発展させて、「孤独死ゼロアクション」を拡散していきます。

また、日置市におきましては、鹿児島市内での活動を充実させた上で水平展開していき、日置市の課題、状況に合わせた形で活動を継続していこうと思えます。

この度は住まいとコミュニティづくり活動助成をいただき、本事業により居住困難に陥った方々の互助活動を活性化でき、つながりを広げていけたことに深く感謝いたします。本当にありがとうございました。